県農水産業温暖化センター

南方系魚種増える

民間、大学連携研究 成果を最終報告

県農水産業温暖化研究センターの2010年度成果発表会は20日、宮崎市の県総合農業試験場であった。宮崎大学のグループは、日向灘沖に生息する魚種数が南方系魚種を中心に30年前の3倍近く増えたことを報告。県は他の研究成果も踏まえ、本年度中に温暖化予測に基づいた「産地構造改革計画」を策定する。

08年度のセンター設立以来、民間や大学との連携で取り組んできた研究が最終年度を迎えたことから各課題について最終報告があった。

宮崎地方気象台職員OBや研究者でつくる「宮崎気象利用研究会」は、温暖化による県内の降水量や水資源の変化をシミュレート。平野部を中心に春先の降水量が減少する一方、県北の山間部では秋口の降水量が増加すると予測。主要河川では一ツ瀬川と五ケ瀬川流域の降水量が減少傾向にあるとした。

宮崎大のグループ（研究総括・酒井正博農学部教授）は、日向灘沖に生息する魚類を調べた結果、中国や台湾付近の南方系魚種を中心に30年前の調査から380種増え、1057種が確認されたと報告。県内で採取されたウシエビの養殖の可能性も示した。

このほか、ハウス用の電気加温機（ヒートポンプ）と重油加温機を併用した「ハイブリッド加温方式」の導入効果や、温暖化の進行が原因とみられる農作物被害などの事例も報告された。

日南ダム回復 放流量増決定

広渡は減

日南市は20日、県日南土木事務所や王子製紙日南工場、土地改良区らと第10回渇水対策会議を開いた。貯水率が100％に回復した日南ダム（同市酒谷）の放流量を増やし、広渡ダム（同市北郷町北河内）の放流量を減らすことを決めた。

県は、日南ダムは14日に貯水率100％になり、放流量を毎秒0・41㌧から自然放流（同0・7㌧）に切り替えたことを説明。また、王子製紙日南工場から要請を受け、18日から広渡ダムの放流量を一時的に増やし、20日現在の貯水率は30％であると報告した。

同ダム流域の東郷土地改良区が今月下旬から開始する飼料米の植え付けに備えて同ダムの貯水量を増やすため、放流量を同0・37㌧から同0・2㌧に減らし、王子製紙の要請に応えるため日南ダムの放流量を同1㌧に増やすことに決めた。